

日本工学院専門学校		開講年度	2019年度		科目名	演劇表現演習Ⅰ	
科目基礎情報							
開設学科	声優・演劇科		コース名	俳優コース		開設期	前期
対象年次	2年次		科目区分	選択		時間数	60時間
単位数	2単位					授業形態	実習
教科書/教材	必要に応じて資料を配布する。						
担当教員情報							
担当教員	井上謙一郎			実務経験の有無・職種	有・殺陣師		
学習目的							
この科目を受講する学生は、殺陣を主としてアクションも学びます。殺陣やアクションの基本技術をはじめ時代劇に必要な知識や所作を学び、それらを自身の身体を使って表現し、そして実際の映像や舞台の現場でどう活かすことが出来るかを目的とします。また同時に殺陣やアクションに伴う危険性について学び、安全対策を常に考えながら実演することも目的とします。。							
到達目標							
この科目では、学生が、殺陣（以降、アクション含む）の本質である（相手との）間合いや呼吸を理解すること、殺陣の危険性について理解すること、課題の殺陣を安全に表現出来ること、また課題の殺陣を的確かつ迫力あるよう観ている側に伝えること、学生たち自身で殺陣場面の演出・振付・実演できること、時代劇では台本に描かれている時代背景を読み解き所作や殺陣を使って表現できることを目標にしている。							
教育方法等							
授業概要	この授業では、個人、パートナー、そしてグループでの作業を行います。与えられた課題にたいしてまずは個人で理解して実演、次に対戦パートナーとの実演で技術の正確性や理解度の確認、グループ作業ではメンバーによる客観的な意見を参考にしてそれぞれの個性や技術を活かしあいながら作品作り（ビデオカメラを使用）に取り組み、最後にそれぞれが感じたことコメントしていく。この授業で学んだこと（インプット）を学生自身が身体を使って表現し、意志や意見を伝えていくこと（アウトプット）を目指します。						
注意点	この授業では、学生間・教員とのコミュニケーションを重視します。授業中の私語や受講態度、及び殺陣に伴う危険行為などには厳しく対応、理由のない遅刻や欠席、また実技の授業である故に許可のない見学も認めない（授業中の急な体調不良を除く）。授業時数の4分の3以上出席しない者は受講態度や実技の評価をすることができない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	成果発表（実技）	50%	期末に行う実技発表会、内容について評価する				
	小発表会（実技）	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	平常点	30%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する				
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	基礎（身体操作,と殺陣・擬斗の本質）			殺陣・アクションに必要な身体操作と本質（間合い、呼吸、伝え方）を理解し表現する			
2回	殺陣と時代劇について①			時代劇に必要な基礎知識①（刀、着付け、他）を理解、所作、刀を使った基本動作が出来る			
3回	アクションの基本①			受け身、格闘の基本動作が出来る			
4回	殺陣と時代劇について②			時代劇に必要な基礎知識②（袴の履き方、太刀やその他の武器）を理解、刀の打ち込みが出来る			
5回	アクションの基本②			受け身、格闘の基本動作・型が出来る			
6回	殺陣の基本③			打ち込み、型・座技（所作を伴う動き）、型・立技「四方斬り」が出来る			
7回	アクションの基本③			受け身、格闘の基本動作・型（前回の続きから仕上げまで）が出来る			
8回	殺陣の基本④			お凧い（打ち込み、型2種）、立廻りの型が出来る			
9回	アクションの基本④			受け身、喧嘩の基本動作・型が出来る			
10回	殺陣の基本⑤			お凧い（打ち込み、型2種）、立廻りの型（前回の続き）が出来る			
11回	アクションの基本⑤			受け身、喧嘩の基本動作・型（前回の続きから仕上げまで）が出来る			
12回	殺陣の基本⑥			お凧い（打ち込み、型2種）、立廻りの型（前回の続きから仕上げまで）が出来る			
13回	アクションの基本 総凧い			アクションの基本的復習と発表会用の作品作り			
14回	殺陣の基本 総凧い			殺陣の基本的復習と発表会用の作品作り			
15回	殺陣・アクションの基本発表会			殺陣・アクションを使つての発表会			